在コルカタ日本国総領事館管内安全対策情報
平成２７年度第１四半期（平成２７年４月～６月）

１　社会・治安情勢

当館が管轄する西ベンガル州，ビハール州，オディシャ州，ジャールカンド州においては，極左武装勢力マオイストの脅威が存在するほか，政党間による衝突などの脅威が存在しており，今期中は以下のような事案が発生しました。（当地紙報道による）

○　５月１２日午前３時５５分ころ、コルカタから北方約 20 kmのティタガール駅付近において、ローカル列車内で爆発が発生。一部報道では、少なくとも２５人が負傷、うち６人が重体と伝えられた。乗客によると、ティタガール駅でグループが乗車してきた後、口論が聞こえ、その後爆発が起きたという。警察によると、乗客の男が爆弾を所持していたもので、同人も爆発により重体の状態としている。

○　５月２３日午後１時３０分ころ、コルカタ市内のティジャラ地区において、アパート内で爆弾の誤爆が発生し、付近住民が一時パニック状態となった。アパートの部屋にいた７名のうち１名が重傷。同室内において爆弾を製造していたとみられ、警察は同居室の所有者や親族を逮捕した。

○　５月２４日午前３時ころ、コルカタ北方約１９０kmの西ベンガル州ビルブフム地区において、同州与党トリナムール・コングレスの幹部宅で爆発事案が発生し、同幹部が負傷、妻は死亡した。報道によると、何者かが爆弾を投てきしたとみられている。

○　５月２４日深夜、ビハール州ガヤ地区付近において、マオイストが車両３２台を放火。この数日前にマオイスト女性活動家が当局によって銃殺されたことに抗議するため、マオイストはゼネラルストライキを呼びかけており、今回の放火もこの活動の一環とみられている。

○　５月２６日午後７時ころ、ビハール州ガヤにおいて、同州与党ジャナタ・ダル統一派のガヤ地区代表を務めるアブヘイ・クシュワハ宅で小包が爆発。報道によると、同人の警備を担当している従兄弟のサントシュ・クマル・クスワハが、小包の中からワイヤーが見えたことを不審に思い、同代表の義兄であるジャイヒンドとともに、野外に移動しようとした際に爆発した。これにより、サントシュは死亡し、ジャイヒンドが負傷。警察では、マオイストの本件への関与について可能性を捨てきれないとしている。

○　６月１２日夕方、ジャールカンド州グムラ地区の警察は、マオイストが襲撃した地区において、１００kgを超える火薬を発見し、押収した。報道によると、この前日に逮捕したマオイストのリーダーから得た情報を基に捜索したところ、発見したという。

○　６月２３日午後８時ころ、ジャールカンド州北西部ラテハル地区クチーラ村において、列車脱線事故が発生、マオイストが線路を爆破した疑いが持たれている。現場最寄り駅の駅長は、同列車は機関車と客車３両の編成で、ジャールカンド州バーカカナ駅からビハール州パトナ駅まで向かう途中、チバトハー駅－バーワディ駅間で線路が爆破されたため、脱線したとしている。地元警察幹部によると、今回の脱線事故に係る死傷者はなかった。マオイストは、６月９日にジャールカンド州で活動家が銃殺されたことに抗議するとして、

ビハール州及びジャールカンド州において、６月２３日からストライキを行っていた。

２　一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当館が所在する西ベンガル州コルカタ市は，人口の都市集中、失業者の増大，貧富差の拡大等を社会背景として，一般犯罪が増加傾向にあります。殺人，強盗，強姦等の凶悪事件も多発しており，性犯罪被害は頻繁に報道されています。コルカタ市やビハール州の観光地ブダガヤなどで，バックパッカーなどの短期邦人旅行者が列車内や駅周辺，繁華街（コルカタのニューマーケットなど），安宿街（コルカタのサダル・ストリートなど）において，スリや置き引きの被害に遭っているほか，見知らぬインド人から親しげに声を掛けられ，一緒に行動するうちに親しくなり，もっともらしい話を持ちかけられ，クレジットカード詐欺などの各種詐欺犯罪や女性に対するわいせつ目的の犯罪も発生しています。また，最近では，邦人旅行者がムンバイやチェンナイで見知らぬインド人から親しげに声をかけられ，コーヒーやオレンジジュースなどの飲食物を提供され，飲食後に気を失い，所持品を窃取されるいわゆる睡眠薬強盗の被害が頻発しており，当地においても過去同様の被害に遭っている邦人がいることから，睡眠薬強盗に対する十分な警戒が必要です。今期中，日本人が犯罪に巻き込まれた事案には接していませんが，こうした犯罪に巻き込まれないよう，十分注意する必要があります。

３　テロ・爆弾事件発生状況

上記１を参照してください。

４　誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の事案には接していません。

５　日本企業の安全に関わる諸問題

日系企業がターゲットにされた事案及び関連情報はありません。